

平成24年度
実施事業

事務事業名	訪問入浴サービス
-------	----------

区分	No	名称
章	1	やさしさと共生するまち
節	3	誰もが安心して暮らせるまちをつくる
施策	3	障がい者福祉の確立
小分類	2	障がい者（児）の自立支援
主要な施策	1	①生活支援の充実
事務事業番号	019	事業開始年度 平成 18 年度 事業終了年度 平成 ー 年度 会計種別

部 名	保健福祉部	グループ名	障害福祉グループ
-----	-------	-------	----------

事務事業の概要 《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	自宅で入浴が困難な身体障がい児・者の介護負担を軽減し、障がい福祉の向上を図ることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成24年度の実績を具体的に記入してください)
	身体障がい児・者に対し、訪問による入浴サービスを行った。 【事業実績】 ・利用人員 2名
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	身体障がい児・者の家族介護の負担軽減を図り、在宅生活を継続するために必要な支援であることから事業を継続する。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	障害者自立支援法、同法施行令、登別市障害者及び障害児訪問入浴サービス事業実施要綱

事業費（財源内訳）の推移 《Plan・Do》

区分		単位	H23年度 決算	H24年度 決算	H25年度 当初予算	H26年度 見込	H27年度 見込
国庫支出金	名称 障害者地域生活支援事業費補助金	千円	440	410	600	600	600
道支出金	名称 障害者地域生活支援事業費補助金	千円	220	205	300	300	300
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	378	373	300	300	300
事業費 合計			1,038	988	1,200	1,200	1,200

指標の推移 《Check》

区分		単位	区分	23年度 実績	24年度 実績	25年度 目標	26年度 目標	27年度 目標
成果指標	① 利用人数	人	目標値	2	2	2	2	2
			実績値	2	2			
	② 利用回数	回/年	目標値	80	96	96	96	96
			実績値	83	79			

比較		《Check》
平成24年度実施以前又は実施中に見られた課題、問題点等	左記の解決に向け行った取組や対策、工夫等	
在宅生活における入浴は、家族の介護負担が大きい。	身体障がい児・者が定期的に入浴を行うことで清潔の保持や2次的な効果が得られるとともに、家族等の介護負担の軽減を図ることができる。	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について			
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 障害者自立支援法において、市町村の実施事業である。
	<input type="radio"/>	② 民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	<input type="radio"/>	③ 国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	<input type="radio"/>	④ 国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について			
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 自宅の浴槽では入浴できない障がい児・者の清潔保持等が図られている。
	<input type="radio"/>	② 市民アンケートの結果から必要性が高い	
	<input type="radio"/>	③ 社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	<input type="radio"/>	④ 市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について			
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 障害者自立支援法において、市町村の実施事業となっている。
	<input type="radio"/>	② 市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	<input type="radio"/>	③ 多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	<input type="radio"/>	④ 将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について			
目的を達成するための成果はあがっていますか？	<input type="radio"/>	① 成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 自宅の浴槽では入浴できない障がい児・者の清潔保持等が図られている。
	<input type="radio"/>	② 市民、団体等の声から成果を感じられる	
	<input type="radio"/>	③ 目に見える形で成果があがっている	
	<input type="radio"/>	④ 成果の把握は困難である	

①担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	身体障がい児・者の清潔保持と家族等の介護負担の軽減を図り、在宅生活を継続していくための必須な支援である。
-----------	----------------------	--

②行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考
-----------	----

③総合的な評価(当該事務事業の方向性) 《Action》

維持	備考
-----------	----

〔評価区分〕

- ◆拡大(事務事業の目的を達成するために事業の規模や経費の大幅な変更が必要な事業)
- ◆維持(事業内容の根幹にかかわる部分については変更せず、不断の点検・検証による効率的な経費の活用や軽微な見直しを行い、継続的に実施する事業又は、事業計画等で予め年次的に実施する事業内容等を定めており、実施年度によって経費や実施個所等に変更が生じる事業)
- ◆改善(当該事業の目的を達成するために、現状の手段や経費、事業の方向性等、事業の根幹に関わる部分について見直す事業)
- ◆休止(暫定的に休止する事業)
- ◆廃止(事業の開始当初から目指していた成果が得られたなど、目的が達成された事業)
- ◆終了(事業の開始当初から予定していた事業期間が終了した事業)